

## 全国学力・学習状況調査 及び教育課程実施状況調査

カラーでご覧になりたい方は  
右のQRコードから中道北小  
ホームページへ <http://www.nakamichikita-e.kofu-ymn.ed.jp/>



### の結果について

命 やさしく かしこく やりぬく子

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月19日(火)に実施され、本校でも6年生21人が参加しました。国語・算数に加え、理科も実施しました。この調査は、本校児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活面の改善などに役立てることを目的としています。調査内容は、大きく教科に関する問題(国語・算数・理科)と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する問題は、知識・技能的な内容と知識・技能を活用する力(思考力・判断力・表現力)、課題解決のための実践力、評価・改善する力を一体的に問っています。7月下旬に文部科学省から結果が送られ、調査結果の分析を行ってきました。この度、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。また、今年度は社会の教育課程実施状況調査も受けることとなり、6年生が4月27日(水)に受けましたので、その結果も合わせて報告いたします。さらに、6年生には個別懇談等を通じてそれぞれ個人の具体的な課題について説明をすることとしています。

今後学校では、「各教科における改善点」をもとに全学年で取組を進めてまいります。また、各ご家庭でも後述の「ご家庭へのお願い」をお読みいただき、ご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 本校の状況(全国・県との比較)

本校の国語・算数の平均正答率は、全国平均・山梨県平均と「ほぼ同等」、理科の平均正答率は、「やや高い」という結果でした。教育課程実施状況調査の社会は、全国平均と「ほぼ同等」という結果でした。昨年度危惧した無答率も改善傾向にあります。

しかし、全国・山梨県と同様に、「思考力・判断力・表現力の正答率が低い」「記述式の問題の正答率が低い」ことは、顕著であります。

質問紙調査については、「将来の夢や目標をもっている」の項目において全国・県より高い傾向にありました。その反面、「テレビゲーム、SNS、動画視聴などにかかる時間の長さ」「休みの日の学習時間の短さ」「普段の日の読書時間の短さ」が課題であると分かりました。教科についての質問紙調査では、国語・算数・理科の勉強の大切さはわかっているものの、あきらめずにいろいろな方法で解いたり、普段の生活の中で活用できないか考えたりしていない傾向があることも分かりました。

(参考)教科別の平均正答率：全国と本県比較 (都道府県平均正答率の小数点以下は明らかにされていません。)

	国語	算数	理科	社会(教育課程調査)
全国平均正答率	65.6	63.2	63.3	69.5
本県平均正答率	64	62	62	65

## 各教科の課題等（平均正答率等を比較して）

### 国語

#### 領域別

- 「我が国の言語文化に関する事項」が全国及び県より高い。
- △「読むこと」は、全国及び県より低い値である。
- △「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」「表現の効果を考える」ことに、課題が見られる。表現の効果は10%以上低い値である。



#### 問題別

- 「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」ことが県・全国よりも高く、数値的にも高い値である。
- △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がみられる。特に、「録画」の正答率が低い。無回答率が高かったのは、「親しむ」である。
- △思考力・判断力・表現力の「書くこと」の「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見付ける」は、記述式であることもあり、県・全国平均よりも低く、数値的にも最も低い値である。無回答率も高い。また、「話すこと・聞くこと」の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の意見をまとめる」ことも県・全国平均より10%以上低い値である。

### 算数

#### 領域別

- 「図形」において県・全国より高い値である。
- △「数と計算」「変化と関係」においては県・全国より低い値であり、知識及び技能の習得が課題である。

#### 問題別

##### 数と計算

- 「被乗数に空位のある整数の乗法の計算」で、正答率が県・全国より高い値である。
- △「2つの数の最小公倍数」や「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数」を求めることにおいて、県・全国より低い値である。
- △「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方の考察」「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めること」が、県・全国より10%以上低い値であるだけでなく、数値的にも低い。

##### 図形

- 「図形を構成する要素に着目しての長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方についての理解」「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目しての平行四辺形の判断」において、県・全国より高い値である。
- △「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察する」問題については、記述式であったこともあり、県・全国より低い値である。

##### 変化と関係

- △「百分率に表された割合を分数で表す」問題において、県・全国より低い値である。
- △「伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量を求める」問題については、記述式であったこともあり、県・全国より10%以上低く、数値的にも低い。

##### データの活用

- 「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」ことができている、県・全国より、10%以上高い値である。

△「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目してある項目に当たる数を求める」問題において、県・全国より10%以上低い値である。

## 理科

### 領域別

○「エネルギー」「物質」「地球」を柱とする領域において、県・全国より、10%以上高い値である。

### 観点別

○知識・技能、思考・表現・判断どちらも、県・全国より高い値である。

### 問題別

#### エネルギー

○「問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果の適切な記録」「実験の方法を検討して改善し自分の考えをもつ」において、高得点であり、県・全国よりも10%以上高い。

△「光の性質」の正答率が低い。

#### 物質

○「メスシリンダーの器具・使い方」「水の性質」については正答率が高く、よく理解していることが伺える。

○「自分が発想した予想と実験結果を基に問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつ」問題において、県・全国より高い数値である。

△記述式の問題では、正答率が低くなっている。

#### 生命

○「こん虫の体のつくり」について、よく理解している。

△「提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」「観察などで得た結果を他者の気づきの視点で分析し、解釈し自分の意見をもつ」問題において、県・全国より低い値である。

#### 地球

○「自分が発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ」「問題を解決するまでの道筋を連想し、自分の考えをもつ」「観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ」問題において、よく理解しており、県・全国より10%以上高い数値である。

## 社会

### 問題別

#### 国土

○北方領土についてよく理解している。

△韓国の国旗・位置、日本の主な地形の名称・位置についての理解が低い。

#### 農業・水産業

○日本の農業についてよく理解している。

△日本の主な漁港・水あげ量、食料生産の食糧自給率の資料の読み取りが出来ていない。

#### 工業

○自動車をつくる工業についてよく理解している。全ての設問で全国より正答率が高い。

○日本の工業生産のさかんな地域について、よく理解している。

○日本の工業生産額のグラフづくりが出来ている。

△太平洋ベルトについての理解が低い。

○日本の輸出品について理解している。

△複数の資料を基に日本の工場の特徴を考え判断する力が弱い。

情報

○メディアの特徴を理解している。

△資料に着目してコンビニエンスストアの特注システムについて捉え、判断する力が弱い。

## 各教科における主な改善点及び授業等における具体的取組

### 【国語】

- ・漢字の習得に課題がある。
- ・叙述を基に捉える力、想像する力が乏しい。
- ・自分の意見や考えをまとめる力が乏しい。
- ・自分の考えを書くことを億劫がったり、諦めたりする傾向がある。



全体を通して

○主体的・対話的で深い学びができるような授業（甲府スタイルの授業）を行う。  
（見通しをもたせる 学習課題を明確にする ノートに自分の考えを表現させる  
友達の考えに触れさせる ふりかえりをさせる ICTを活用する・・・）

話すこと聞くこと

○話し合い活動において、互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることが出来る授業を仕組む。

書くこと

○文章の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える指導を充実する。

○文章に対する自分の感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけられるような指導をする。

○書くことへの抵抗を減らすために、授業における学習感想、自学や連絡帳における日記など、書く機会を意図的に増やす。担任が添削およびコメントを書く。

読むこと

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導を充実する。

漢字や語句の習得

○普段から漢字を使わせるようにする。

○自学において、効率的に漢字練習を行ったり習った漢字を使って文章を書いたりする内容を盛り込めるように指導する。習った語句も文章表現上で使えるようにする。

### 【算数】

- ・目的に応じて、数学的に表現処理する力が乏しい。
- ・図や表、数と式等を日常の具体的場面と関連する力が弱い。
- ・数学的事象において自分の考えをもったり記述したりする力が弱く、書くことを諦めてしまう傾向がある。



- 主体的・対話的で深い学びができるような授業（甲府スタイルの授業）を行う。（見通しをもたせる、自分の考えを書かせる 考えを交流しあう ふりかえりをさせる ICTを活用する・・・）
  - どの既習事項を使えば問題を解くことができるかなどを児童が選び考える授業を行う。
- 数と計算
- 目的に合った数の処理の仕方を考えることができるような指導を充実させる。
- 図形
- 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、図形の構成の仕方について考察できるような指導を充実させる。
- 変化と関係
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるような指導を充実させる。
- データの活用
- 目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察できるような指導を充実させる。

#### 【理科】

- 記述する問題に弱い。
- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実や観察・実験で得た結果について分析したり、解釈したりする力、自分の意見をもつ力が弱い。



- 主体的・対話的で深い学びができるような授業（甲府スタイルの授業）を行う。（見通しをもたせる 自分の考え・意見をもつ ICTの活用・・・）
- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実や観察・実験で得た結果について、複数の視点で比較し表に分類整理する中で、事実を比較し問題を見いだしたり、自分の意見をもったりする指導を充実させる。
- 問題解決の過程を充実させた授業を行う。
- 考えを明確にさせるために言語活動を充実させた授業を行う。

#### 【社会】

- 概念的知識で、定着の低い問題がある。
- 資料を読み取る技能に課題がある。



- 主体的・対話的で深い学びができるような授業（甲府スタイルの授業）を行う。（見通しをもたせる 学習の問題を追及し解決する 資料の活用 自分の考え・意見をもつ ICTの活用・・・）
- 身に付けさせたい知識を明確にした授業を行う。
- 授業において児童の疑問を引き出す工夫を行う。
- 問題解決の過程を充実させた授業を行う。

## 質問紙調査から見る本校児童の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。本校児童の主な特徴は次のとおりです。



### 家での生活について

- 「毎日同じくらいの時間に寝ている」と答えた児童の割合が県・全国より高い。
- △平日のゲームの時間が県や全国より長く、4時間以上が2割いる。
- △平日のSNS・動画視聴時間も県や全国より長く、3時間以上が3割いる。

### 自分や友だち、学級について

- 「将来の夢や目標をもっているか」の問いの肯定回答の割合が高い。
- 「友達と協力することが楽しい」と思っている児童の割合が高い。
- △「自分には良いところがあると思うか」については、「当てはまらない・どちらかと言えば当てはまらない」と答えた児童が3割いて、全国及び県より多い。
- △「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の問いに対して、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国及び県より高い。
- △「人が困っているときは進んで助けるか」の問いに対して、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国・県より高い。

### 学習について

- △「学校が休みの日の家での学習時間」では「1時間より少ない・全くしない」が5割を超え、県や全国より短い傾向にある。
- △「一日あたりの読書時間」も「10分より少ない・全くしない」が5割を超え、全国・県より短い傾向にある。
- △新聞を読んでいない児童は、8割に迫る勢いである。これは全国・県も同傾向である。
- 「国語の学習の大切さ」を認識している児童の割合が高い。
- 「算数の授業での学習が将来社会の役に立つ」と考えている児童の割合が、全国及び県より高い。
- △「算数の時間に学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」の問いに対し、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国・県より高い。
- △「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」の問いに対し、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国・県より高い。
- 「理科の勉強が好き」と回答している児童が多い。
- △「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」の問いに対し、「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国・県より高い。

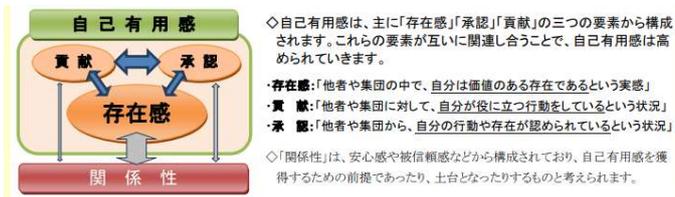
### 地域や社会への関心について

- 地域の行事に参加している割合が、県及び全国よりも高い。

## 質問紙調査からの改善点



- \* 学校生活・家庭生活において、自己有用感（他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚）が育つように働きかける。（参考資料：栃木県総合教育センター 高めよう！自己有用感）



自己有用感が育つと、自信をもって生活できるようになる。そこで、学校では、時間をかけて頑張った事がらについて認め合う場面を作ったり、学校行事に対し、個人の目標を設定し達成に向けて活動させたりしていく。

- \* 家庭での過ごし方について、保護者と協力して、取り組んでいく。
  - ・ゲーム、SNS、動画視聴など、インターネット使用のルールづくり
  - ・家庭での学習時間を増やしたり、効率的に学習したりする。
    - 自学ノートを有効利用し、進んで自主学習が行えるように仕向けていく。
    - 家族で協力して、ノーテレビデー・ノーゲームデーなどの取組を進める。
- \* 授業等でのICTの効果的な活用を推進する。
  - GIGAスクール構想による1人1台端末を効果的に活用する。
- \* 話し合い活動など考えたり発表しあったりする時間を取り入れた授業を進めていき、自分の考えを高めたり深めたり出来るようにする。
- \* 学習したことを生活に生かすためにはどうしたらいいか考えさせたり、学習したことを実際の生活に生かさせたりし、学習の大切さを感じさせる。
- \* 新聞記事を活用した授業を展開するなど、新聞に親しませる。
- \* 朝読書の時間をしっかり確保し、本の楽しさを感じさせる。

## ご家庭へのお願い

- \* 学力と生活習慣は密接に関係しておりますので、**早寝・早起き・朝ご飯の習慣**を、親子で実践していただけますようお願いいたします。
- \* 宿題をやることはもちろんですが、自分で考えて自分で行う学習である自主学習に取り組ませましょう。**自学ノート**を活用し、保護者もノートに目を通すなど、お子さんの学習に対する関心を高めていただくと、お子さんもやる気になると思います。ご協力をお願いします。
- \* 文章を読み取る力は、すべての教科において欠かすことのできない力です。テレビやPCの電源を落とし家族全員で**読書や新聞を読む取組**をしたり、興味もてるような記事を元に話をする機会をつくったりし、活字に触れる機会を増やしていただければと思います。リビングに新聞・本・地図帳を置きすぐに手に取れる環境にするのも効果的です。
- \* 先日もお願いしたばかりですが、ゲームをする時間が長いことも家庭での学習時間の短さに影響していると考えます。そこで、**ゲーム機やPC、スマホ等の使い方について、もう一度家族で話し合ってください**。使用時間などのルールを決めたり、作ったルールを見直したり守らせたりする取組を、根気強く進めていただけたらありがたいです。
- \* **自己有用感を高める取組**を学校でも行ってまいります。家庭でも、次の3つの関わりを参考にお子さんに向き合い関わっていただければと思います。



### 家庭で自己有用感を高める三つの「関わり」

- 子どもに関心をもち、子どもの話をじっくり聴きましょう。
- 家事を分担し、責任を果たさせ、達成感を味わわせましょう。
- 子どものよい面を認め、ほめて欲しいと思っていることをほめましょう。